

「はばたき」とは、男女共同参画社会を実現するため、2004年から年1回発行している都留市男女共同参画推進委員会の機関紙です。前年より、広報つるの特集として掲載することになりました。



今回は、都留市出身の戦場ジャーナリストとして世界の紛争地取材されている山本美香さんにお話をうかがいました。

山本さんは、去る8月20日、シリア北部のアレッポでの取材中、激しい戦闘に巻き込まれ、その生涯に幕を閉じました。

このインタビューは、7月12日に都留市エコハウスにおいて行われ、これが都留市における山本さんの最後の仕事となってしまいました。今回のインタビュー掲載は、ご遺族のご意向により、実現したものです。

山本さんのご逝去に対し、心から哀悼の意を表します。

『行って見てみたい』という好奇心

伊藤さん(以下敬称略) 山本さんは、アフガニスタンやイラクなど世界の紛争地取材しています。どのようなきっかけがあったのでしょうか。

山本さん(以下敬称略) 最初はテレビ局に入り、報道記者として事件や事故、災害などを取材していました。1991年に、長崎で雲仙普賢岳の火砕流があり、災害現場の取材を初めて長期で行いました。その時、災害というものが人間の生活も精神も破壊してしまうということが、すごく身に染みてわかったんです。

そこで、人間として生きていく中で何もかも奪われて、心も破壊されてしまう出来事は、何だろうと考えた時に、「戦争」がテーマとして浮かんできました。「戦争」というものがなくなるといいとみんな思っているのに、なぜなくならないんだらう」と常に疑問に思っていて、その現場はどうなのかを捉えていきたいと思ったのがきっかけです。

伊藤 戦地は平和な日本にいる私たちにとっては別世界のように感じますし、テロやゲリラなど、命の危険も伴う場所だと思っています。取材に出かける時に「ああ、怖くて嫌だなあ」と感じることはないのですか。

山本 ないですね。もう行くとなったら決めていますので。準備不足やリスクが高い時は、不安や緊張感がありますが、自分の中で気持ちのスイッチを入れ替えて、オンオフをつけています。

でも、もともと環境に合わせられる適応力は昔からあるのかもしれないです。

を尊重するという姿勢を示せば、受け入れてくれますし、彼らも押し付けはしません。
伊藤 立場や境遇が違っても、お互いに尊重する姿勢が大切なのですね。

現地での家庭における男女の関係はどのようなものでしょうか。

山本 アフガニスタンなどは、社会参加という意味で女性には抑圧されていますが、家族の中では、実は女性の立場は強いんです。強いというのは「権利がある」ということではなくて、結局仕切るのは妻なんです。

だから夫が尻にしかれちゃうケースが実はあるんです。家庭では、たいてい肝っ玉母さんで、男性の方が妻の機嫌が悪くならないようにしている部分は、他の国と共通なんですよ。

三浦 女性を立てる方がうまくいくと私も思います。私たち委員3人で研修に行った時なんかは、女性2人にはかなわなかったですよ(笑)。

男や女ではなく『得意分野』を伸ばす

石原 私はコンビニの店長をしているのですが、時々心が折れそうな時があるんですね。やっぱりまだ「男だから」「女だから」という男女間の性差意識を感じます。山本さんは、そのような壁にぶつかって落ち込んだりすることはありませんか。

山本 私も、「あー！困った」としやがみ込むことはたくさんあるんですよ。しやがみ込むくらいになったら、もうしやがみ込んで折れちゃうんです。もうダメだと思ったら、

石原さん(以下敬称略) そのように取材を続けられるのはどういった思いがあるのでしょうか。

山本 それはいくつかあるんですけど、一番はやっぱ「行って見てみたい」なんです。好奇心なんです。何が起きているのかというのは、伝聞じゃなく見てみたいし、本当のことが何かを知りたい。戦地では、深刻な人権侵害が起きていても表に出てこないことが非常にたくさんあるので、この目で確かめたい、調べたいという気持ちが強くあります。

紛争地帯取材することは、リスクもありますし、誰もが行けるわけではない。でもジャーナリストの重要な役目だと思っています。

取材で見たもの―

『人はそんなに変わらない』ということ

三浦さん(以下敬称略) 宗教や文化、民族、生活習慣といった違いに戸惑いを感じることはないですか。

山本 最初はイスラム教の国に行ったらどうなってしまうんだろうとか、みんな何を考えているかわからないというところから始まったんですが、長年やっていてわかったことは、そんなに人間って変わらないんだということなんです。

確かに言葉も肌の色も、習慣も違いますが、私が嫌なことは相手もたいてい嫌だし、うれしいことはうれしい。

「文化も違うから、教えて」という姿勢で取材に行くと、すごく世話を焼いてくれるんです。「モスクに入る時はこうした方がいい」とか「あまり肌は出さない方がいい」とか。それができるだけ守って、彼らの文化なり、慣習

● インタビュアー
都留市男女共同参画推進委員会



伊藤利花 委員長



三浦忠一 副委員長



石原さゆり 委員



● ジャーナリスト 山本 美香さん

都留市四日市場出身。都留文科大学を卒業後、「朝日ニュースター」に入社。1996年から「ジャパンプレス」に所属し、世界の紛争地取材。2001年のアメリカ同時多発テロ事件の時には、アフガニスタンへの空爆開始後も同国で長期取材を続ける。2003年、空爆下のイラク戦争報道でボーン・上田記念国際記者賞特別賞を受賞。2012年8月、シリアのアレッポにて取材中、銃弾に倒れる。享年45歳。